

第 38 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】(たけのこクラブ) 【名前】(米本美紀) 【立場】(保護者 or 指導員)

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第(7)分科会 名称(しょうがいのある子どもの理解と学童保育での居場所づくり)

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

今回、改めてしょうがいのある子どもの支援を勉強したく今回の分科会に決めました。しょうがいをもつ児童の受け入れ先の少なさ、特に愛知県は少ないという現実に関心が高まりました。受け入れが難しい理由には沢山の理由があると思います。

支援員不足が一番の原因なのかな?とも感じました。

しょうがいをもつ子ども達が、しょうがいのない子ども達の輪に入ることは刺激にもなる反面大きなストレスを与える時もあります。その中で、可能な限り子ども達が生活しやすい環境をつくるのが大切だと感じました。

しょうがいのある子ども達にとっても放課後の生活は大切で、気持ちの区切りも必要で寄り道しながら学童に帰宅することも、子ども達にとったら区切りの一つだと感じました。

しょうがいのない子が何気なく乗り越えていくこともなかなか乗り越えられない。

しょうがいのない子と比べると、時間や経験の積み重ねが必要なので、私たち支援員は時間がかかっても出来る事を認めるのが大切だと思いました。

「こだわり」一つも同じで、なぜこだわりを必要とするのか、しょうがいをもつ子どもにとったら「こだわり」はクッション材になっていると知りました。

「こだわり」も、子どもの側に立つ私たちが考えることが必要だと改めて気づきました。今後の現場で「理解」と「環境づくり」を忘れることなく、しょうがいをもつ子どもと向き合い、一緒に生活していきたいと思います。

※このレポートは、参加されたすべての保護者と指導員にご提出をお願いしています。

※文字数の制限はありません。この用紙に手書きでもかまいませんし、データでお送りいただいてもかまいません。

※×切は 3/21 (月) です。指導員に手渡し、または、こちらのアドレス okazakigakudou@yahoo.co.jp にお送りください。

※ご提出されたレポートは、当会のホームページや岡崎がくどうの会だより「よりどころ」に掲載する予定です。